

## 第5章 公共施設の再配置について

公共施設白書によって公共施設の現況を把握してきましたが、今後、本市の公共施設のあり方について、市民等の意見を伺いながら、本市の置かれている現状と課題を踏まえ、次の4つの基本方針と5つの視点に基づき再配置計画を検討していきます。

### 1. 再配置の基本方針

- ① 行政財産と普通財産を併せた全ての公有財産を有効に活用し、市民ニーズに応えます。
- ② 協働の推進の観点から、管理運営への民間活力の導入や民間財産を活用した低コスト化に努め、あわせて利用者の満足度を高めます。
- ③ 類似施設については、利用頻度、利用実態に基づき、統廃合を視野に入れて施設のあり方を整理します。
- ④ 不用財産や遊休財産を整理し、売却や貸付等による財源確保を図るとともに、管理運営の見直しにより維持管理経費の削減を図ります。

## 2. 再配置の視点

### 1. バランスのとれた施設配置

#### (1) 機能的な施設の再配置

施設の再配置については、施設の機能や性質、施設間の距離や交通利便性、地形等から施設数や配置バランスを検討します。

#### (2) 施設評価に基づく再配置

施設のコストや利用状況を更新しながら、費用対効果や老朽化・耐震性の状況、改修・建て替え等の将来負担などの分析を含めた評価を行います。

### 2. 施設の統廃合と多機能化

#### (1) 施設の統廃合

優先順位の低い施設については、原則的に統廃合の対象とします。その際には必要な機能を周辺公共施設等に確保することや代替サービスの提供によって、サービスが低下しないよう努めます。

#### (2) 施設の多目的利用

既存の枠組みによる分類をなくし、全市的、総合的な視点から、施設や設備等の共用による多目的な利用の可能性や効果について検討し、柔軟性を持った施設活用による多機能化を進めます。

### 3. 効率的・効果的な管理運営

#### (1) 効率的な施設サービスの提供

多くの市民が利用しやすい施設とするため、利用者の意向や実態などを的確に把握し、利用の形態について、柔軟かつ弾力的に対応することによって利用率や稼働率の向上に努めます。

#### (2) 民間活力の積極的な活用

民間の知識やノウハウを活用することによって、サービスの向上やコストの削減が図られる施設については、民間事業者等を活用することによる効果と課題、公的関与の必要性等を検証した上で、指定管理者制度の導入や民間施設への移行などの活用を進めます。

#### (3) 適正な受益者負担の推進

施設を多く利用する市民と利用頻度の少ない市民との負担の公平性を保つ観点から、サービス提供に伴う経費と利用者負担を比較検討し、適正な受益者負担となるよう施設使用料等を見直します。

### 4. 市民・地域の力による再配置

#### (1) 市民と共に考える公共施設の未来

より多くの市民が、自らの住むまちの現状をとらえ、そして、将来の姿を自らが考え、その実現のために自らが積極的に行動する社会への転換が進み、市民自らが将来のあり方を考える機会の拡大に努めます。

#### (2) 地域対応施設の地域による運営

地域住民の活動のために利用されている地域対応施設については、地域住民の自発的な意思による運営が可能となるような検討を行います。

#### (3) 市民の声を活かした施設運営

公共施設のあり方を検討するに当たっては、公共施設の現状や課題を公開し、市民の声を広く聴く機会を設け、より多くの声を反映させた施設運営を行うよう努めます。

## 5. 計画的な施設整備

### (1) 施設の長寿命化

公共施設は、従来の老朽化等に伴う故障等が発生してから修繕を行う事後保全から、定期的な点検や耐震性・劣化度調査等に基づいた計画的な改修を行う予防保全に転換し、施設の安全性や快適性も確保した施設の長寿命化を検討します。

### (2) 複合施設の整備

建て替え等が必要な施設には、近隣の施設の併用・複合化を検討し、機能の集約を推進します。

### (3) 計画的な施設の更新

大規模な施設の改修や建て替えについては、早い段階から個別に検討組織等を設置し、施設のあり方やPPP/PFI等の整備手法、その後の管理運営手法などを含めた新たな事業手法について十分な検討を行い、計画的な施設の更新に取り組みます。



## 1. 目的

薩摩川内市の地域資源（自然・歴史・文化・食など）を連携させ、見ただけで薩摩川内市の魅力の創造とブランド力を強く、広くアピールできるロゴマークを策定し、地域内外に薩摩川内市のファンを増やすことを目的としています。

## 2. スピリッツの意味

ロゴマークに記載しているスピリッツとは、「精神」「魂」「活気」「元気」といった心まつわるいろいろな意味が含まれています。薩摩川内スピリッツの「おもてなしの心」「こだわりの心」「思いやりの心」によって生み出された薩摩川内市の地域資源を活かし「行きたい」「買いたい」「暮らしたい」という気持ちの誘引を図るという思いから設定しました。

## 3. 活用

今後、市のポスター、名刺、パンフレット等の公共的なものに広く活用して行きます。

また、現在商標登録中であり登録後は、特産品、民間の商品、パッケージ等多目的な使用も可能となります。

## 4. ブランドロゴマークの意味

**青は** 甌の海や川内川を表現。  
研究し見極めようとする「探求する心」を象徴。

**赤は** かのこゆり、ハート（心）を表現。  
人や文化を「受け入れる心」を象徴。

**緑は** 薩摩川内市の大自然を表現。  
伝統や信念を「守り抜く心」を象徴。

**黄は** 明るい街並みや豊かな食を表現。  
先んじて「取り組む心」を象徴。

それぞれを円で表現し、この4つが一体となって薩摩川内人（さつませんだいびと）の「心」になるという意味である。



# 薩摩川内市公共施設白書

平成 27 年 5 月

編集・発行：薩摩川内市 総務部 財産活用推進課  
〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町 3 番 22 号